

令和4年度 山城地方 通級指導教室担当者会議を 開催しました

日 時：令和4年6月30日（木）

場 所：Zoom会議システムにてオンライン開催

参加者：山城地方小・中学校の通級指導教室担当者
山城地方各市町（広域連合）教育委員会特別支援教育担当指導主事

通級指導教室担当者として、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育的支援の充実について学んだり、他校の取組状況を交流したりすること等により指導力の向上を図り、特別支援教育全体の充実に資することを目的として開催している通級指導教室担当者会議。今年度も残念ながらオンライン形式での開催となりましたが、小学校から48名、中学校から16名、市町（広域連合）教育委員会から8名、計72名の先生方に参加いただきました。

「発達検査の意義とその活用」について 今泉祥子先生に講義いただきました。

通級指導教室の担当者として、欠かすことができない発達検査について、奈良教育大学特任教授の今泉祥子先生に講義いただきました。

発達検査や知能検査の特徴やテストバッテリーの考え方、また新版K式検査とWISC検査から分かることを丁寧に解説いただき、子どもたちをより正しくより深く理解するための有効な検査の活用方法について熱心に教授いただきました。

参加された先生が次の日からでも活かせるような発達検査における考え方がよく分かる講義でした。



参加者の感想より

- ☆ アセスメントの観点、テストバッテリーの重要性、主訴の要因を探る役割など、発達検査を担う立場にとって、必要な視点が聞けた事が良かったです。
- ☆ 「気になる子」「困っている子」ではなく「困難を乗り越える仲間」という言葉が印象的でした。詳しく具体的な講義をありがとうございました。
- ☆ K式発達検査とWISCの違いがよく分かりました。特徴を知り、児童の課題を考え検査を実施したいと思いました。